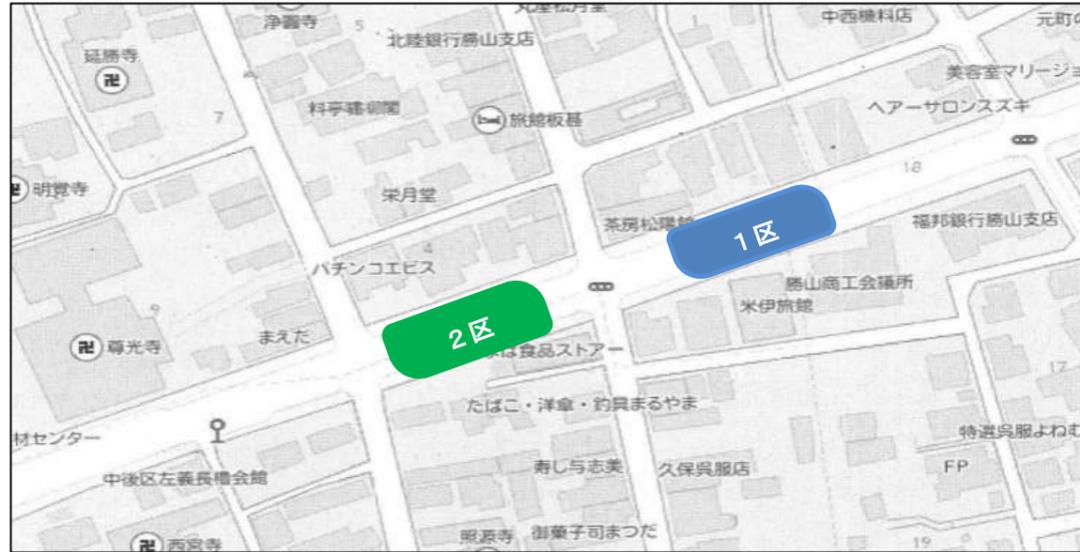


令和元年度

勝山城跡・袋田遺跡発掘調査概要



本年度の調査位置



しちりかべ 七里壁

勝山市の中心市街地をほぼ南北に縦断する高さ5~6mの段丘崖の一部で、江戸時代には、七里壁を境に一段高い段丘面に武家屋敷が、低い段丘面には町屋・寺院が配置され城下町が形成されていました。



1区調査区全景 西から撮影



1区 南西から撮影

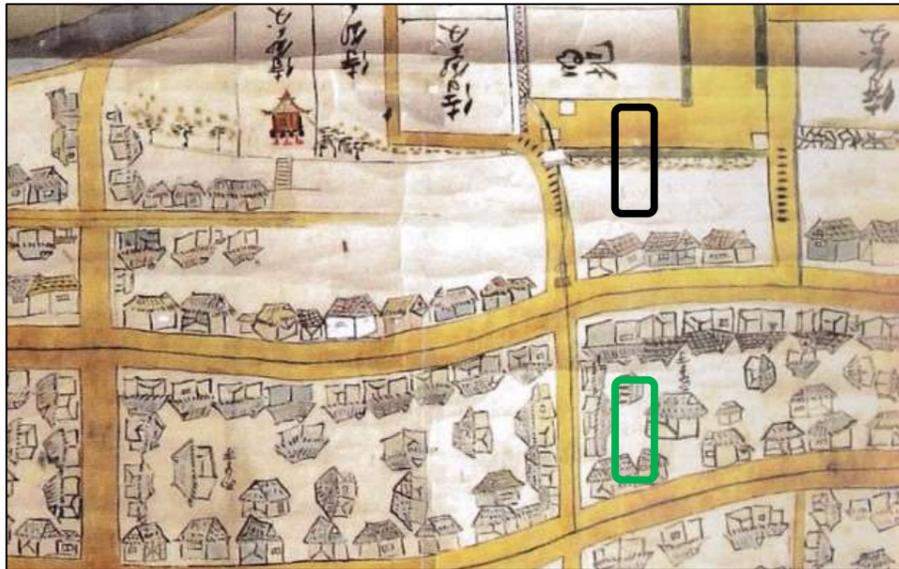
七里壁と思われる石垣

1区の調査

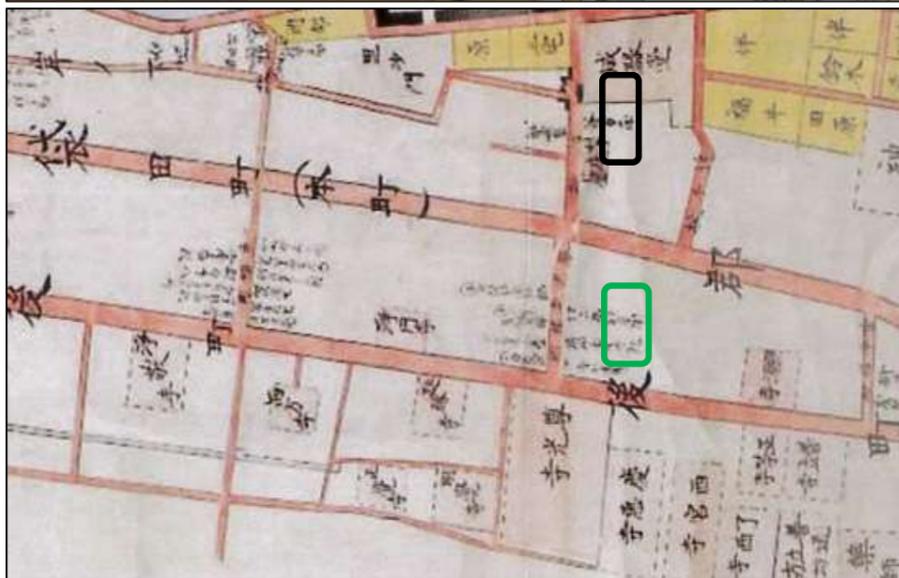
勝山(袋田)城は、天正8年(1580)に柴田勝安が北袋の一向一揆を平定して袋田村に築城し、居城としました。

その後一度は廃城となりましたが、元禄4年(1692)、小笠原貞信が勝山藩に移り、勝山城の城下町が計画されました。宝永6年(1709)から築城が始まり、文政10年(1827)にようやく完成しましたが、明治4年(1871)に廃城となり、都市計画などで石垣や土塁、堀など遺構も失われてしまいました。

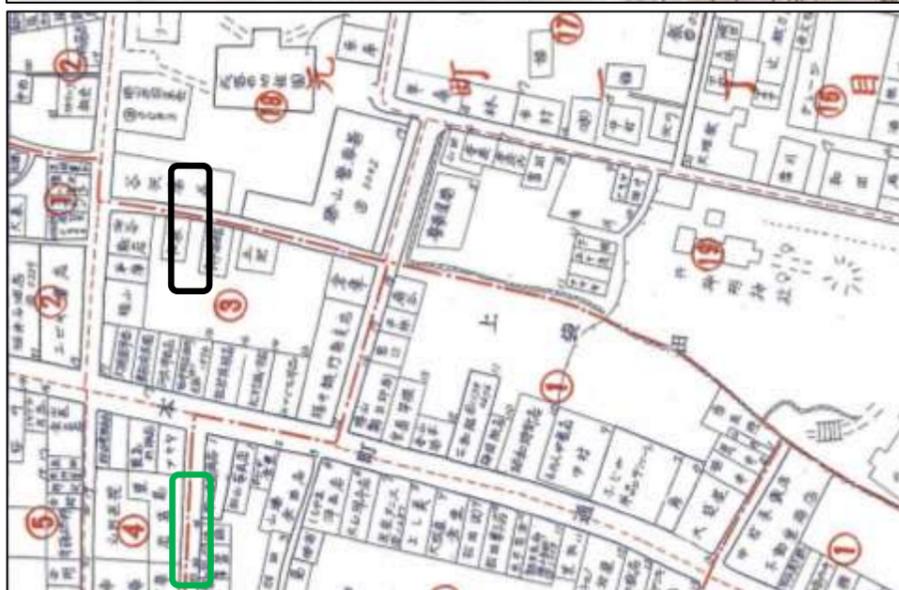
1区では、七里壁と思われる石垣が見つかり、西側の石垣下からは、近世に使用された井戸が見つかり、当時の勝山城下町に、人々が暮らしていたことを改めて知ることができました。1区から出土した遺物は、中世に明から伝わった青磁など、中近世の陶磁器が中心でしたが、近代勝山の特産品といえる葉タバコを製造していた企業ゆかりの品などもあり、様々な遺物が出土しました。



元禄勝山城下絵図
17世紀末～18世紀初め



幕末勝山之図
幕末～明治10年



昭和44年の住宅地図

凡例

1区調査区

2区調査区



2区調査区全景 (中世) 西から撮影

2区の調査

2区は絵図などによると、町人が居住し、お寺が立ち並ぶ地区でした。

2区では、特に江戸時代に使用された井戸が多く見つかったことが特徴であり、また貯蔵用の施設と想定される大きく深い土坑など生活に密着した遺構が見られました。

狭い範囲から多数の井戸が検出されたことから、当時の人々は、井戸が枯れるとさらに深く井戸を掘り進めるのではなく、新たな井戸を掘り起こし、水源を確保していたと考えられます。

また、奈良時代から平安時代の小穴や縄文時代から弥生時代の河川跡も確認しています。

2区から出土した遺物には、近世に使用されたとと思われる石臼や陶磁器などの生活具が多く出土し、古くは縄文土器や弥生土器といった1000年以上前の遺物も出土しました。



土坑の中から出土した石臼 南から撮影



井戸 (近世)



大きな柱穴

参考文献

勝山市「図説 勝山市史」平成9年 / 増田公輔「改訂 勝山藩校 成器堂」平成24年

山田雄造「城下絵図に見る勝山町の変遷」平成25年 / 勝山市「ものがたり かつやまの歴史中・下」平成29年